

略 歴

西條 剛央（さいじょう たけお）

1974年宮城県仙台市生まれ。

日本学術振興会特別研究員DC及びPD、早稲田大学大学院（MBA）専任講師、客員准教授を経て2019年よりエッセンシャル・マネジメント・スクール代表。

2011年の東日本大震災に際して、独自に体系化した構造構成主義（本質行動学）をもとに日本最大級となる総合支援ボランティア組織を実現。

2014年、Prix Ars Electronicaのコミュニティ部門において、WWWやウィキペディアが受賞した最優秀賞「ゴールデン・ニカ」を日本人として初受賞。「ベストチームオブザイヤー2014」受賞。大川小学校の事故の研究を契機として立ち上げた「スマートサバイバープロジェクト」で、ネパール地震、熊本地震をはじめとする災害支援を実現し、「最優秀グッド減災賞」「NPOの社会課題解決を支えるICTサービス大賞」受賞。

著書に「クライシスマネジメントの本質－本質行動学による3.11大川小学校事故の研究」（山川出版社）、「構造構成主義とは何か」（北大路書房）、「質的研究とは何か」（新曜社）、「人を助けるすんごい仕組み」（ダイヤモンド社）、「チームの力」（筑摩書房）など。